

01

痛みについて

医療の
小ネタ

痛みはすべての症状の中で最もつらい症状で、我慢するメリットは何一つありませんから、どんな手を使っても早く抑えなければなりません。

しかし残念ながら、すべての痛みに効く薬は存在しませんので、それぞれ原因に応じた治療が必要になります。

痛みの出てくる原因は、大別して二つあります。

一つ目は「炎症」で、やけどで痛んだり、風邪の時にのどが痛むのはこの炎症が起こるからです。気管支炎も肺炎も胃腸炎も、およそ病名に「炎」がつく場合の痛みはこの機序によるものですから、治療には「消炎鎮痛剤」を用います。

二つ目は神経痛に代表される、神経の直接刺激によって引き起こされる痛みです。ある程度以上の年齢の方は経験されているでしょうが、歯医者さんで歯の神経に触れると、とんでもなく痛みました。自分もいまだにトラウマになっています。

骨が変形して神経を圧迫するような整形外科領域の痛みは、大体このようなメカニズムによるものですから、いくら消炎鎮痛剤を用いても効きません。最近はこのような場合に「神経痛治療薬」が積極的に用いられるようになりました。

両方が重なる痛みもあります。

帯状疱疹は要するに“神経の火傷”ですから半端なく痛みます。目印となる水泡が出ないタイプもありますので、おかしい！と思ったら、帯状疱疹後神経痛を残さないように早めに受診しましょう。

